

オープンキャンパス

犬山キャンパス

経済学部 現代経済学科、経営学部 経営学科、法学部 ビジネス法学科
人間生活科学部 教育保育学科、管理栄養学科
短期大学部 保育科

8/19(日)

9:30から受付、10:00~14:30 開催予定

10/20(土)・21(日)

10月は大学祭(名経祭)と同時開催

名経サテライトキャンパス

短期大学部 キャリアデザイン学科

8/26(日)

12:30から受付
13:00~16:00 開催予定

10/28(日)

10月は大学祭(キャリア祭)と同時開催

オープンキャンパスメニュー

犬山キャンパス

- ウェルカムガイダンス
- 学部・学科説明会
- 体験授業
- 保護者向け講演会
- 大学ランチ(無料)体験
- 相談コーナー
- キャンパスツアー
- 幼稚園を体験
- オリジナルグッズプレゼント ほか

名経サテライトキャンパス

- ウェルカムガイダンス
- 学科説明会
- 体験授業
- ファッションショー
- 相談コーナー
- こだわりスイーツコレクション
- オリジナルグッズプレゼント
- お楽しみコーナー ほか

名経大
OPEN
CAMPUS
2012

入場自由

予約不要



平成25年度(2013)入試日程

※選考方法については、「2013年度入学試験要項」にてご確認ください。

■ 大学・短期大学部

入試区分	エントリー期間	第一次審査日	審査結果発表日	正式出願期間	第二次審査	合格発表日
AO	1期	平成24年4月30日(月)~9月7日(金)	9月15日(土)	9月18日(火)	平成24年9月20日(水)~9月25日(火)	10月5日(金)
	2期	平成24年9月10日(月)~10月5日(金)	10月13日(土)	10月16日(火)	平成24年10月17日(水)~10月24日(水)	11月9日(金)
	3期	平成24年11月5日(月)~11月16日(金)	11月24日(土)	11月27日(火)	平成24年11月28日(水)~12月3日(月)	12月14日(金)

※第二次審査は受験要項のみで、本学に来る必要はありません。

入試区分	経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部 短期大学部							出願期間(前印有無)	面接日・試験日	合格発表日	
	現代経済	経営	ビジネス法	教育保育	管理栄養	保育	キャリアデザイン				
1期	A方式(基礎力テスト型)	○	○	○	○	—	○	○	平成24年10月9日(火)~10月24日(水)	11月3日(土)・6日	11月9日(金)
	B方式(小論文型)	○	○	○	○	—	—	○			
	C方式(基礎力テスト+面接型)	○	○	○	○	○	○	○			
	D方式(小論文+面接型)	○	○	○	○	—	—	○			
	E方式(自己PR型)	○	○	○	○	—	—	○			
2期	A方式(基礎力テスト型)	○	○	○	○	—	○	○	平成24年11月19日(月)~11月30日(金)	12月9日(日)	12月14日(金)
	B方式(小論文型)	○	○	○	○	—	—	○			
	C方式(基礎力テスト+面接型)	○	○	○	○	○	○	○			
	D方式(小論文+面接型)	○	○	○	○	—	—	○			
	E方式(自己PR型)	○	○	○	○	—	—	○			

■ 大学院

研究科	専攻	試験会場	課程	入試区分	出願期間(前印有無)	試験日	合格発表日
法学	企業法学	名経サテライトキャンパス	博士後期	1期	平成25年1月4日(金)~1月15日(火)	平成25年2月9日(土)	2月13日(水)
	法学		修士		平成24年8月13日(月)~8月21日(火)	平成24年9月8日(土)	9月12日(水)
会計学	会計学		博士後期	1期	平成25年1月4日(金)~1月15日(火)	平成25年2月10日(日)	2月13日(水)
	会計学		修士前期		平成24年8月13日(月)~8月21日(火)	平成24年9月9日(日)	9月12日(水)
人間生活科学	幼児保育学	犬山キャンパス	修士	1期	平成24年8月22日(水)~8月30日(水)	平成24年9月16日(日)	9月21日(金)
	栄養管理						

※上記各研究科・専攻の入試には、推薦、一般、社会人、外国人留学生の入試区分があります。
※法学研究科(修士課程)、会計学研究科(修士前期課程)では、1期試験(2月)、2期試験(3月)も実施します。

学校法人市邨学園 教育研究充実寄附金のお祝い

学校法人市邨学園では、少子化の進行などにより今後より私学を取り巻く環境を踏まえ、100年積み上げて参りました教育・研究活動の益々の振興充実をはかるべく、「学校法人市邨学園教育研究充実寄附金」(任意)を募集いたしております。

趣旨にご賛同いただき、ご寄附をお申し出いただける場合、またご質問・ご不明の点などありましたら下記の連絡先までご請求いただけますよう、よろしくお願いたします。なお、本法人は特定公益増進法人の認定を受けており、一定の条件を満たした場合には、寄附金に対する免税措置を受けることができます。

連絡先 学校法人市邨学園 法人本部(寄附金担当)
TEL 052-853-0047(代表)

合同懇親会のお誘い

日時:11月11日(日)午前11時受付開始
会場:名経グランドホテル
大学院・大学・短期大学部同窓会において3年に1度の合同懇親会を開催いたします。皆さんお誘い合わせのうえぜひご参加ください。
※詳しい内容は、9月下旬の同窓会報に掲載いたします。

MEIKEI
QR de アンケート

http://www.smaster.jp/Sheet.aspx?SheetID=64215



アンケートにご協力いただいた方の中から
抽選で20名様に
1,000円分の
図書カードを
プレゼント!

MEIKEI

名経大通信 Vol.41
2012. 7.26
名古屋経済大学
名古屋経済大学短期大学部

MEIKEI 名経大通信 Vol.41 平成24年7月28日発行 名古屋経済大学・短期大学部 〒464-8504 犬山市内久保6-1 TEL 0568-67-0511(代) http://www.meikei-ku.ac.jp/

企画・編集 TEL 0568-67-0624 FAX 0568-67-0724
※本誌掲載の企業・団体・個人・法人の名称・ロゴ・写真等は、必ずしも最新のものとは限りません。



名経大のこれから、高大連携のこれから

— 激変の時代を生きる力を育てる —

去る6月22日、名古屋経済大学 佐々木学長と市邨校 澁谷校長ならびに高蔵校 鈴木校長との鼎談が実現しました。本年4月、執行部を一新して新たな歴史を作る出発をした名古屋経済大学・短期大学部のこれからと、同じ市邨学園の大学と高校との連携協力のあり方などについて、率直な意見交換をしていただきました。



名古屋経済大学・短期大学部 理念と目標

「一に人物、二に伎倆」を謳う建学の精神と100年を超える学園の伝統を継承しつつ、新しい時代と社会に対応する活力のある大学をつくる。

大学の総力を挙げて、在学生と教職員みずからにとって、進学を目指す高校生にとって、そして地域社会にとって、魅力のある大学をつくる。

経済を中心としたグローバル化や情報化など、社会の急速な変化に対応できる「学士力」(専攻領域の基本的知識、汎用的技能、創造的思考力、学び続ける力)を備えた人材を育成する。

学生の主体的な学びを促し、自主的な課外活動などを奨励し、関連なキャンパスライフを促進する。

市邨高校、高蔵高校ならびに近隣の高等学校との連携をいっそう強め、密度の高い高大連携の取組に基づき、未来を担う有為な人材の育成を図る。

地域に根差し、地域とともにある大学を目指し、近隣の地方自治体、経済界、市民団体などとの様々な連携を強化する。

海外との国際交流を強化し、とりわけアジア諸国からの留学生受け入れと、本学からの海外留学生派遣を促進する。

学長のリーダーシップのもとで、教員組織と事務組織、ならびに事務組織における各部間の連携協力を強め、革新的で効率的な大学運営を行う。

同窓会や後援会との連携を強めるとともに、学外者によるアドバイザー・ボードを設置し、多様な意見を取り入れながら大学経営の改善を進める。

名経大を変える — 理念と目標

佐々木：ご承知の通り、18歳人口の減少に伴って日本の多くの私立大学が入学者の獲得に大変苦労をしています。残念ながら私どもの大学もその例外ではありません。私は、4月1日に学長に就任して以来、気がついた所から一つひとつ改革を進める作業をしてきました。思いを一言で言えば、「魅力のある大学」にしたいということです。まずは、いま在学している学生やこの大学を職場としている教職員にとって、本学が自分の学びの場として、職場として、魅力的な存在にならなければいけません。そうすれば、進学先を考えている高校生に向けて本学の魅力が発信できる。名古屋経済大学をそんな方向へ変えたい、変わりたい、そういう思いを教職員の方々と交わしながらやってきました。そろそろ本学の中・長期的なビジョンを示して、それに向かって全教職員が進んでゆく必要があるのではないかと気がつきましたので、左に掲載したような「理念と目標」を示し、全教職員の意見を募り、ほぼコンセンサスを得ることができました。まずこれについてお話ししたいと思います。

「一に人物、二に伎倆」—新しい時代的意義

市邨学園の創設者 市邨芳樹先生が「一に人物、二に伎倆」を建学の精神として掲げられた。これは100年以上も前のことなのですが、私は、この精神は今日、新しい輝きを持ち始めていると思うのです。経済を中心とした社会のグローバル化や情報化が急速に進み、そのもとで私たちの周りの社会の仕組みや雇用形態などが大きく変わってゆく。そこへ東日本大震災が起きて、これまでの価値観が根本的に問い直され始めた。このような時代にあっては、教えられて覚えこんだ知識や技術、すなわち「伎倆」は役に立たなくなるかもしれない。

「伎倆」がいらないというわけではないのですが、それ以上に必要なのは「人物」「人間としての力」ではないのか。ですから、私たちはこの建学の精神と、100年を超える市邨学園の伝統を継承していきたい。同時に、大きく変動しつつある新しい時代と社会に対応する活力のある大学としたい。こういう思いをまず語りました。

もう一つは、大学の総力をあげて「魅力のある大学」を目指すことです。「進学を目指す高校生にとって」に加えて、「地域社会にとって」魅力のある大学と置きました。これは、名古屋経済大学は犬山市や小牧市、春日井市など大学周辺の地域に根を張った大学として、地域の知と文化の拠点という役割を果たしていきたい、という思いに基づくものです。

学ぶ力を育てる高大連携

私は、昨年2月から中央教育審議会大学分科会の大学教育部会の部会長を仰せつかっています。その部会は、今の大学生にどのような「力」を修得させるべきかという観点で、大学教育の質の向上の方策を検討してきました。先ほど述べたように、社会やそれを支える価値観が大きく変化する時代に必要なのは「学び続ける力」ではないのか、というのが導かれた答えです。市邨先生がおっしゃった、教育が単なる知識の注入に終わってはならないということに通じます。既存の知識が役に立たなくなった時や新しい事態に遭遇した時に、そこに問題を発見し、解決の糸口を見出していくための「学ぶ力」というのが一番大事なことであろう。その力は、学生に教え込むのではなく、主体的に学ぶという体験を通してはじめて修得させることができる。私たちは、学生自身の主体的な学びを促してゆくの大学教育の役割だという自覚を共有することが求められていると思います。

このような人材の育成を考える時に、高校教育と大学教育との連動・連携が必要なのですね。「高大連携」が唱えられて久しいのですが、高校・大学が人材養成の面で本当に連携していくことが大事です。幸い私どもは、同じ学園の中学・高校・短大・大学を共有しているわけですから、文字通り相互に連携しながら、若い人の力を育てていくことができると考えます。私は、本学の目標の一つとして高校と連携した人材育成に力点を置きたい。これは、地域に根ざした大学という観点からすると、犬山、小牧、春日井など近隣の高校とも密度の高い高大連携を進めて、継続的な教育で人材育成を進めることを意味します。この間、そんな思いを抱きながら佐分副学長と2人で10校を超える近隣の高校を訪問して、校長先生や進路指導の先生方と意見交換をしてきました。

アジアとの交流を進める

もう一つ、社会のグローバル化が進行して行く時代の大学の在り方として、本学は、特にアジアを中心に国際的に活躍できる人材を養成していきたいと思えます。一つには他の国々の若い人々を本学に迎え入れたい。「ものづくり」の地域として存在感を示してきた愛知県の実業や、あるいはトヨタの経営方式などを学んだ若者を国にお返りする。逆に、アジア各地に進出しつつある企業とともに現地にどんどん出て行って国際的に活躍できる、日本の若者を育てたいと思えます。

こんな思いを「理念と目標」という形で示しました。本日は、両校長先生から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

考える力・遅しさ・個性を育てる教育を

鈴木：大学は実際に社会につながる場所ですので、そうした側面での大学の魅力も備えなければいけないのでしょね。グローバル化が進む中で、大学としてはいろんな状況に対応できる力を育てなければならぬ。特に「考える力」がないと知識があっても通用しない。価値観の変化に対応できないですね。「考える力」を育てる大学であって欲しいと思えます。違う角度から言えば「遅しさ」です。継続して学び続ける「遅しさ」が必要です。名経大は、この「考える力」と「遅しさ」を育成できる、魅力ある大学であって欲しいと思っています。

また、あの大地震を踏まえて考えますと、どの学科でもボランティア活動ができることなどが魅力の一つになりますね。それからスポーツですね。スポーツの強化もできるだけ早め実現されると嬉しそうです。本校の生徒も、サッカー

や野球など、大学でもっと活躍したいと憧れている生徒も多いですから。名経大でさらに力を発揮できるようにさせたいですね。

学びの主体性の問題は、大学だけではなく高校にも共通するのではないかと思います。カリキュラムが豊富で授業科目もたくさんあります。ですから主体性をもって全部やれというのは大変です。だとすれば、少なくとも自分の得意なものや好きなもの一つくらいは主体性を持って学ぶようにと指導するわけです。大学もその生徒の学びの成果をよく見ていただいて、「この子はこういう特徴がある」「こういう力を持った生徒だ」という認識で入学させてくれれば、大学でも力を発揮できるのではないかと思います。

「世界は我が市場なり」—広い視野を育てる

澁谷：市邨先生が建学の精神として残されたいくつかの言葉の中で、「一に人物、二に伎倆」は現代にも通用するものだと思いますので、私も生徒への話の中でしばしば語ります。もう一つ、「世界は我が市場なり」という言葉がありますね。私はそれをよく生徒に話そうにしているのです。グローバル化という話が出ましたが、今の高校生はそこまで視野が広がらない。自分の将来についてもほんの数年先くらい。希望を、といてもそれが無い。そこで、生徒に先を見据えさせる意味で「世界を視野に入れてみなさい」と話すのです。「今は英語が嫌いだと言っても、実際に社会に出た時に英語力なくてはやっていけないということがわかるだろう」という話もするのです。

この度、本校の寺本明日香がロンドン・オリンピックに出ることになりましたが、スポーツなどはすぐ世界につながるわけです。「君たちがスポーツで、日本で一番になりたいと思った時、その先に必ず世界がある」。こういうことなら生徒たちがイメージしやすい。

もう一点、知識注入型の学びから「学ぶ力」の修得へということをおっしゃいましたが、私もいろんな場面でそれを生徒に話します。生徒たちが一番の関心は、次のテストでどれだけ点を取って、どういう成績がつくかということなのですね。そこで「学ぶということはどういうことなのか」を時に問いかけるのです。学びの出発点は、「何かを知りたい、分かってほしい」という思いですから、そういう興味や関心がないと困る。今の生徒たちにはそれさえない、という面もありますから、中学校でも高校でも、その辺の掘り起こしをしないといけないと思っています。そういう掘り起こしから学びの姿勢が出てくる。それが、「大学へ行って何をやるのか。大学をどうやって選んで、どんなふうに勉強していこうか」という考えにつながっていくのではないかと考えています。

出席者 Profile



名古屋経済大学 学長
佐々木 雄太

ささき ゆうた 1943年生まれ。京都大学大学院法学部政治学専攻修士課程中退。大分大学経済学部教員を経て名古屋大学法学部助教授、教員。名古屋大学法学部部長、同副部長、愛知県立大学学長を歴任後、2012年4月より現職。法学博士。



名古屋経済大学市邨高等学校・中学校 校長
澁谷 有人

しぶや ゆうじん 1951年生まれ。名古屋大学理学部地理学専攻卒業。愛知県立加藤高等学校(徳信制課程)教員、愛知県立日進高等学校、愛知県立熱田高等学校校長を歴任後、2011年4月より現職。公益財団法人全国高等学校体育連盟理事。



名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校 校長
鈴木 一男

すずき かずお 1949年生まれ。名古屋大学理学部数学科卒業。県立守山高等学校教員を経て県教委高等学校教育課に行政職として勤務。県立高蔵高等学校校長、県総合教育センター所長、県教委学習教育部長、県立駒高高等学校校長を歴任。2010年4月より現職。



名古屋経済大学 副学長
佐分 晴夫 (司会)

さぶり はるお 名古屋経済大学法学部卒業。国際法・国際経済法専攻。名古屋大学教授、副部長を経て2012年4月より現職。国際法学会日本国際経済法学会会員。



寺本さんの快挙—学園に弾み

佐々木：先日、寺本明日香さんの壮行会に参加させていただいて、本人とも少し話す機会があったのですが、彼女の快挙は私たちの学園全体にとって本当に嬉しいことですね。寺本さんのような生徒が出てくることによって周りが元気になる。それを大いに期待したいですね。寺本さんには、ぜひロンドンで伸びのびといい演技をして、よい結果を残して欲しいと思います。

スポーツの点でいいますと、先頃、本学の野球部が第3部とはいえリーグで優勝して、さらに2部に昇格したのです。私は「このビッグニュースをもっと大学の中で広めようよ」って話をしてきた。毎日の厳しい練習に耐えて、勝ち抜いて手にした栄冠ですから、これをみんなで喜び合う。みんなで喜び合う中で、大学全体の活性化を進めたいと思っております。

本学では、野球、ラグビー、剣道、バスケットボールに来年度からはサッカーを加え、5種目を強化指定種目に力を入れる計画です。この面でも高校と実質的な連携を強めて、7年一貫で優れたアスリートを育てたいものです。学生たちにとっては、鈴木先生がおっしゃったように、ボランティアとかスポーツを通して、そこから何かをしたいという意欲を発見していくことが重要だと思います。

鈴木：ボランティア活動を通して社会への貢献が経験できるようにすれば、また自信にもつながってくる。

受験型の勉強を脱して自信を持つ

佐々木：そうですね。私も自信を持つ、自信を持たせるということがとても大事だと思います。率直に言って本学の学生に欠けているのはそのあたりですね。受験勉強はあまり得意ではなかった、なかなか始めなかった、そこではじかれた、という経験を持っている学生が多いと思うのです。彼らには「教えられたことを覚え込むことが学びではないんだよ」「学ぶというのは好奇心を持つことだよ」ということをぜひ伝えたい。これは受験型の教育、勉強から脱却していくということとして、そうすることによって彼らが自信を取り戻すということが非常に大事ですね。

ある研究機関の調査では、大学でも学生の4人に3人は、「高校と同じように、先生に教壇から全部教えてもらいたい」と考えているというのです。「私たちはそれを一生懸命ノートして覚えます」って言う。これが困るんですね。遊谷先生もおっしゃったように、視野を広げる、希望を持つ、好奇心を多彩に広げていく、そういう教育が必要ですね。そこで、「自分の希望の実現のためにコンピュータリテラシーをきちんと身につけなきゃいけない。英語もしっかりやらなければい

けない。社会科学の基本的な知識がやはり必要だ」ということに気づいて、主体的な学びにつながっていく、つなげていかなければならないと思うのです。

主体的な学びを導く教育の工夫

先般、私が部会長を務めている中教審の大学教育部会が「審議のまとめ」を公表しましたが、そこでは学生の主体的な学びを促したい、学生の学修時間をもっと増やしたいという趣旨の訴えをしています。これは学生に「もっと勉強しなさい」と言っているように受けとられがちですが、実は違うのです。これは教員へのメッセージなのです。学生が主体的に長時間の学習をしようという意欲を、教師が促してやらなければならない。そのために、大学での授業のあり方、教育の方法の工夫や改革が必要なのです。

例えば、教壇からの一方通行的な講義では、学生の主体的な学びの意欲を引き出すことができない。好奇心を様々な角度から育てるためには、教室の外に出て行くのが一つの方法かもしれない。本学は地域の大学でありたいと言いましたが、犬山市、小牧市、春日井市あたりを大学のキャンパスと考え、教室と考え、そこへ出て行って問題を発見する。それを学びの課題に、主体的な学びにつなげていく。そんな期待を持って、実は全教員に「フィールドワークあるいはプロジェクト・ベースド・ラーニングを各人一つくらいは工夫してください」と提案しているところです。

自信と誇りの、よいスパイラルを

鈴木：それは、高校の総合的な学習の時間の大学版になると思いますけれど、自分で調査してそれをまとめて研究して発表する、そういう力が養われるわけですね。

先ほどの話に戻りますが、自信というのは誇りがあるとまた向上するわけです。自信と誇りはスパイラル。自信がつけば誇りが持てるし、誇りが持てればまた自信がつく、そういういい循環を作る必要がある。ところが、「自信と誇りを持つことについて」というある調査結果では、「自分は他の人に劣らず価値のある人間だと思うか？」という質問への肯定的答が、日本の高校生は39.7%、アメリカは79.7%、中国と韓国は86.7%なのですよ。「自分をだめな人間と思うことがあるか？」という質問に対しては、韓国は31.9%、中国は39.1%、アメリカは52.8%。これに比べて日本は83.6%。8割以上の者が自分はだめだと思っているわけです。この自信のなさはどうしてでしょうね。やっていることに充実感がない、手応えがないのではないのでしょうか。誇りが持てないのでしょうか。日本の若者は根が素直で、欲張りなことを言いませんが、それが自信を持ってないという悪循環につながっている。

オールラウンドでなくても、何か一つ。例えば「私は英語については英検の資格を持っているのだ」となれば、誇りが生まれまわす。周りからも評価されますから自信がつく、誇りが持てますね。そうすると今度は、「ヘタな英語ではいけない、勉強しなければいけない」ということになる。いいスパイラルが生まれるのではないかなと思うのです。

佐々木：日本の若者の8割がね、自分はだめな人間だと思うというのは、どうしてそうなったのでしょうか。たぶん多様性が失われてきた結果じゃないでしょうか。大学進学率が50数%というのは一つの問題じゃないかなと思うのです。大学がたくさんある。みんな大学に行かなくちゃいけないと考える。しかし、本来、若い人たちにはいろんな得意な領域、自信を持てる領域というのがあるはずですね。でも、それが必ずしも的確に評価されない社会に日本はいつの間にかなくなってしまっ、親も先生も「まあ、とにかく大学に行けよ」と言う。そのためには受験勉強をしなくちゃいけない。しかし、どうしてもそれになじまない。そういう若者が増えてきているということじゃないでしょうか。職業高校へ行ったり、専門学校へ行ったり、大学へ行ったり、大学院へ行ったり。そういう多様な道筋、あるいは生き方が社会的に評価される社会にならないとだめだと思のです。

佐分：アメリカもその数字は50数%と高いでしょう。これには世界におけるそれぞれの国の置かれている経済的地位が影響していると思います。特に、一定程度まで豊かになって、ハングリー精神が薄らいだところで全体として落ちていくと、守りに入ることになる。そうすると、目立たないようにあるものを確保しようという構造が社会的に広がる。それが大きいと思うのです。問題は、それを打ち破るためにはどうしたらいいかということですね。

遊谷：打ち破るためには、自分の周りのことだけを見ているのではなく、世界に出ていくことですね。

佐分：先生が言われた「世界は我が市場なり」ですね。アジアの元気のあるところに放り出すのがいいかもしれません。

名経大では何を学べるか—個性の発信と入試制度

鈴木：国公立へ行けば将来の心配がないという見方が、悔しいですがちっとも変わっていない。それぞれの大学にそれぞれの個性があって、生徒には「どこで学ぶかではなく、何を学ぶか」で進学先を決めてもらいたい。世間の価値観、見方がそういう方向に変化することを期待したいですね。

佐々木：私も、魅力ある大学となるひとつのポイントは「名古屋経済大学に行けば何々ができます。どういう学びができます」という点を明確に示さるかどうにかかっていると思うのです。ひとことで言えば、大学の個性化を図る。個性化した上でそれを社会に発信する、という姿勢が非常に重要になってきていると思います。

佐分：大学の個性化は、入学試験のあり方とも大きく関わってきますね。高校側からすると大学の入試は知識注入型の教育を求めているように見える。だからひたすら知識を教え込まないといけないじゃないかという話になりますね。私たちは個人的には入試制度を抜本的に変えたいと思う。知識はまったくいらぬとは言わないけれど、二番目に評価すればいい。それよりも、好奇心を持っている、やる気がある、元気があふ。そういう点を評価できる制度を考えたらどうかという話はあるのです。同じ学園の高校・大学同士ですから、入学試験制度についても意思疎通を強めることを考えるべきでしょうね。

鈴木：自分の持っている力を発揮できる仕組みがいい。例えば、ペーパーテストも「これなら自信がある」という科目を受けてください。面接も「5分間与えるから自分のいいところを自分で考えて語りなさい」と。

佐々木：こちらが質問するのではなく、受験者が自分からアピールすることですね。

鈴木：そうです。アピールする。入試では、「この生徒はこの面が得意で誰よりも優れている」という点を見て欲しい。「その生徒が得意分野をどのくらい自信を持ってやってきたか」が見えるといいと思いますね。

遊谷：学びの意欲を重視するという趣旨であれば、その趣旨に即した試験方法を考えないといけないと思います。知識注入型教育がいらぬということであれば、そういう側面は問わない。大学側が「こういう能力を判定する試験をする」という点をきちんと表明された方がいいと思います。

高校では、先生方は知識を教え込む方を得意としてきましたし、大学も知識重視型の入試をやってくれるという、日本の入試制度はそんな形で曲がりなりにも続いています。もし、学びの意欲を持った生徒を探りたいというなら、そういう選り方を考えていただかなくてはならない。ペーパーテストでしたら、生徒の読解力とか考え方を試すような試験をやるのがひとつの方法です。文科省がやっている全国学力テストは批判もいろいろありますが、あの問題は非常に良くできていると思います。A問題、B問題があって、B問題の方は知識を問うのではなく、読んで考えさせるという問題です。大学入試の問題を意識して作っているところはあまりない。

佐々木：大学入試の場合には、公平性という観点から採点に主観が入るような出題を避けるのです。ある時期から多くの大学で小論文を課すケースが増えましたが、小論文も知識注入型に取り込まれてしまっ、受験生の回答がパターン化している。あらかじめいくつかの素材を用意してきてそれを出題された課題に無理矢理ねじ込む、そういう答案が増えましたね。

鈴木：やはり対面、面接重視ですね。

佐々木：AO入試は、本来そういう趣旨でやらないといけない。

鈴木：今は青田買いみたいになっていて、まずいですよね。

高大連携の実質化 — 出前講義で学びの楽しさを教える

佐分：次に、せっかくの機会ですから、高校での教育の悩みや、同じ学園の大学へのご要望などを率直にお話しただけませんか。

佐々木：私たちが、高大連携をもう少し実質化していく、密度の濃いものにしていく方向を模索しています。ただ単に両校から学生をたくさん迎え入れたいというだけではありません。高校に大学の資源を使わせていただく、それを高校のレベルアップにつなげていただく。その結果、我々もいい生徒を受け入れることができ、レベルアップできるととてもいい。こんな話を大学近隣の高校の校長先生ともしています。そんな点を両先生からお伺いしたいと思います。

遊谷：私も高大連携のことはずっと頭にあります。先ほど大学での学びの形としてフィールドワークやプロジェクト型の学習と言われましたが、高校生にとってそれはたぶん感覚として「勉強」ではないんですよ。「勉強」というのは教室で教えられてノートにとること、とパターン化してしまっている。それを打ち破りたいのですが、そのきっかけを高大連携の中で作れないでしょうか。例えば、生徒向けの授業をしていただいて、「これが勉強なんだよ」「君たちがやっているのは習い事であって、勉強というのは自分で考えることなんだよ」ということを示していただくとすごく有り難いです。

佐分：重要なのはそこですね。先頃、市部高校の総合学習の時間に授業をする機会をいただいたのですが、その時はそういう話をしました。名古屋大学にいる時も1年生の授業を受け持ちましたが、受験勉強に長けている学生がいっぱい来ていて、私が話を始めるとみんなノートをとります。「今日の時間はノートをとるのは禁止」「私の言うことを丸呑みせずに、考えてください」と言ったものです。学ぶということは決して教室で授業を聞くだけではなく、学校行事も含めてすべてが学びだということを教えなければいけません。大学は、入試をきちんと変えて、生徒たちが遊びだと思っていることが実は勉強なのだ、ということを生徒に信用してもらうことが大事だと思います。市部高校での授業では一つの例を出しました。「サトイモの葉っぱに水が落ちるとコロコロといくの、見たことあるかい？」ってね。「あれにヒントを得て、ワイパーのいらぬ車のウィンドウを一生懸命に開発している先生が名古屋大学にいるんですよ」と、何でもいから興味を持つことが必要だ。自分の専門と関係ないことでも、どこかで役に立つ。こういうことが実感できるような授業があるといいですね。フィールドワークがそのひとつです。



佐分副学長

フィールドワークやプロジェクト型学習の導入

佐々木：大学の教員も教壇で講義するのにいちばん長けているし、楽なんです。私が「全教員は少なくともゼミではフィールドワークかプロジェクト型を

導入してください」と提案したら、きつとたくさんの教員から「私にはできない」という苦情が来るといいます。たしかにフィールドワークやプロジェクト型というのは教員にとって時間や負担が大きいのです。

そこで、私が考えているのは、授業科目を精選することです。日本の大学では一般的に授業科目数が多すぎる。そこで「今、我が大学の学生に何を教えるべきか、彼らは何を学ぶべきか」という観点で授業科目を絞り込む。そして、そこにプロジェクト型あるいはフィールドワークを導入するなど、一つひとつの授業の質を向上させる。こんな改革を考えています。



佐々木学長

鈴木：生徒だけではなく教員の方の主体性があるわけですね。高麗高校の商業科の先生たちが、自分たちで「商業科DAY」といったものを作って名経大にお世話になると主体性を持ってプランを練って実行しました。「これはいいな」と嬉しく思いました。また先日は、本校の中学生がいちむら幼稚園の見学と体験学習をさせていただいて、本当に有り難かったです。そういう面で総合的な学園のメリットを活用させていただければと思います。

「してみたいこと」から「したいこと」へ

遊谷：本校も次のカリキュラムから「キャリアデザインコース」というコースを作ります。その中に「大学に行ってこういうことを学ばせたい」「幼稚園に行って学ばせたい」「入試につながるような講義を受けさせたい」というプランが学がっています。まだ完成していないのですが、ぜひ相談させていただきたいと思っています。

佐々木：進路の選択の問題ですが、高校生の場合、進学を早い時期に決めている生徒にはくっきりと顔の見える学部・学科が望ましいでしょうね。ところが、先日、中教審の会議で若い人の生き方を支援する活動を行っている人の話を聞いたのですが、高校生に「あなたがしたいことを決めなさい」というのは無理な話だということです。生徒には「してみたいこと」はたくさんあっても「したいこと」を決めるといのは無理な話だと。だから、大学は入口を広くして「してみたいこと」を体験した上で「したいこと」を発見する段階を踏ませるシステムを作るべきだ、という提言をいただいたのです。それが本学にも必要かもしれないと思うのです。

たとえば、本学には法学、経済学、経営学という社会科学3学部がありますが、その入口の一つにする。共通の入口をくぐって1年あるいは2年間、法学も経済も経営も勉強しながら、その後「私のしたいこと」を選択して特定の学部に進学するというシステムです。かつての東京大学の教養学部や一類、二類といった入試のシステムを見直すことが必要かな、という思いを持っているのです。

遊谷：たしかに「うちの大学に来ればこういうことができるよ」という選択肢をいくつか提示した上で、まず「してみたいこと」を問うというのはいいですね。

佐々木：本学のキャリアデザイン学科が、短期大学の規模は小さい学科です

が、実はこのシステムなのです。入学するまでは自分が「何をしたいか」はわからない、でも「してみたいこと」はいろいろある、という学生を受け入れます。現在7つのコースを用意していますが、入学後にそのいくつかを体験しながら、2年後の卒業までに特定の知識とスキルを身につけて社会に出て行く。そういう理念に立って作られています。そういう考え方は、大学全体として導入した方が良いでしょうと思います。

鈴木：高校の場合、総合学科がそれなのです。たくさんのメニューから選択して、学びながら自分の進路を考えるという仕組みです。いい面もありますが、反省もあります。大学受験には中途半端、就職にも中途半端だと。初めから進路を決めている生徒は自分で学んでいきますからいいんです。ところが、学びながら選択するという生徒にとっては中途半端です。大学でもその仕組みの主旨をしっかりと理解させることが大事だと思います。

大学入試にかかわる連携協力の可能性

遊谷：具体的な提案ですが、大学入試の問題にかかわる連携協力というのはできないのでしょうか。今の高校の先生は大学入試に向けた勉強をさせているのですが、その教育が本当に有効なのかどうかを確信していません。大学入試に関して自信がある、実績があるという先生でも、「この教育内容が本当に大学入試の成果につながるのだろうか」という疑いをずっと持っていると思います。同じ学園の高校と大学ですので、「大学はこういう入試をやっている」「大学の狙いはこうだ」というような情報交換はできないでしょうか。高校側からは「そんなことを高校生に問うても力は読み取れません」という趣旨のことが言えるかもしれませんが。



遊谷校長

佐々木：少なくとも今年度の問題作成がどういう主旨で行われて、狙いはどこにあったかということと事後的に高校の先生方と協議することは充分可能ですね。そうすることによって大学側の狙い、高校側からの問題提起、問題点の指摘が行われていけば、入試問題の改善に大いにつながるといえますね。これは早速来年度から実施することができます。

遊谷：今日も学校の教員と話してきたのですが、同じ学園でありながら、名経大はやはり他の並びの大学の一つなのです。先生方の意識もそうなのです。それを何とかしたいと思っていますが、それを打ち破るにはそこまでの連携を進めないとはいけません。

佐々木：入試問題に関する先生のご提案も一つだと思えますし、大事なのもう少し日常的に高校の先生方と我々が意見交換をしながら、こちらが求めている人材、資質をきちんとお伝えする。高校側からも、そうであれば入口を改善すべきであるといった、具体的なご提案をいただく。そういう双方向的な関係を作っていくことが大切だと思っています。



鈴木校長

当面の方策 — 特待生制度や授業料等の減免措置

佐分：それでは最後に、まず学長から大学・短大の改革に関わる当面の方策の一部を紹介して欲しいと思います。次に、伝統ある市部学園の中学校、高校、短大、大学の卒業生がたくさん社会で活躍しておられるわけで、そういう方々と今後どのように連携を図って名経大を、高校、中学校を盛り上げていくかということについて、結びのご発言をお願いします。

佐々木：私たちの差し迫った課題は、入学定員の充足です。私たちは「学ぶ力」を持った学生をたくさん迎え入れて大学を活性化したいと思っています。詳しいことは文書をもって公表しますが、例えば、調査書の評点4.0以上の生徒に対して、毎年の授業料など学納金の大幅な免除を行いたい。近年、経済的な理由で進学を断念したり、中途退学を余儀なくされる生徒・学生が増えています。そうした側面への対応という趣旨でも授業料などの減免制度を充実させたいと思います。スポーツ特待生についても同様に、特待条件の充実を進めます。意欲を持った学生の参入によって、キャンパスが活性化することを期待するからです。また、「市部学園」の絆を強めるといふ趣旨で、中学、高校、短大、大学を問わず市部学園のこれまでの同窓生の子どもについては入学金を免除する制度を決めました。先日、寺本さんの壮行会の会場で、あるご婦人から声をかけられて、4月のPTA総会での私の話がよかったというおほめの言葉と、「私は市部の同窓生ですから、ぜひ名古屋経済大学をいい大学にしてほしい」という励ましをいただきました。これはとても嬉しかったです。そういう市部学園の同窓生の方々の期待感というのが潜在的に広くあるのだと思います。そのお気持ちと我々はつながっていきたくて、そんな思いを強くしています。

同窓生からの期待や同窓会との協力

鈴木：学校の活性化にはやはり同窓会の支援が必要です。同窓会組織は、大きいだけに悩みを抱えているようです。「比較的若い世代が集まりにくい、どうにかならないか」という相談もありました。本校卒業30年目の同窓生に、卒業式見学の案内を送る計画もあります。卒業式に出席いただいて、式の終了後には図書館で当時の古い歴史を語る展示や映像も見ていただく。また、当時の先生方もお招きして語らうのひとときを持ち、来年度の9月の同窓会の総会につなげたい。そんな企画を今、着々と進めています。

佐々木：たしかに同窓会というのは出席のきっかけが必要ですね。そういう意味では、この間の寺本さんの壮行会がいいきっかけになったのではないのでしょうか。たくさんの同窓生がやってきてみんなで応援しようという雰囲気がありました。オリンピックを機会に市部高校はもちろんです。市部学園全体の結束が強まることを期待したいですね。何よりも寺本さんの健康を祈りたいと思います。

佐分：それでは、長時間どうもありがとうございました。

小木紀之名誉教授が「消費者支援功労者*」として内閣総理大臣賞を受賞!

本学的小木紀之名誉教授が消費者支援功労者として「内閣総理大臣賞」を受賞されました。5月28日(月)には、総理大臣官邸にて表彰式が行われました。小木名誉教授は消費者問題・消費者教育の専門家として、本学経済学部にて30年余にわたり勤務。消費者の視点から経済や暮らしを考え、数々の功績をおさめられました。

日本消費者教育学会の創立に尽力され、その第2代会長として同学会の発展にも寄与され(現在、名誉会長)、愛知県・名古屋市長・岐阜県・三重県の各消費生活関係審議会の会長として、地方消費者行政の発展にも貢献してこられました。また、本学の消費者問題研究所所長を務め、我が国における消費者問題研究の一大拠点としてその地位向上に努めてこられました。今回の受賞は本学としても大変喜ばしい出来事であり、今後ますますのご活躍を期待したいと思います。

*消費者支援功労者表彰とは、消費者利益の保護・増進のために活動している方々を政府が表彰する制度。従来、内閣府特命担当大臣表彰として実施されてきましたが、消費者庁創設に伴い、新たに「内閣総理大臣賞」が設けられました。

消費者支援功労者として総理大臣表彰を受けた 小木 紀之さん

商業高校の新人教師として、「商品」の科目を受け持ったのが消費者教育の道に進むきっかけとなった。商品テストをする実験科目。古米と新米の見分け方、酒に防腐剤が使われているかの調べ方。宿直室に拍まり込むほど商品テストにのめり込んだ。

実験法が「家庭でできる商品テスト」という本になると大きな反響を呼び、本を参考にテストをして「うちの商品は大丈夫」とPRする精米店も現れた。「適切な判断が

この人

できる消費者は良い商品やサービスを選び、優良企業に利益をもたらす。同時に悪質企業を淘汰する。

商品テストを通して問題意識を持つようになった生徒の姿にも、早期からの消費者教育の必要性が現実味を帯びてきた。本年度、日本消費者教育学会の創立にも尽くした功績などで、消費者支援功労者の内閣総理大臣表彰に、「消費者教育への評価、推進法制定への弾みになればうれしい。」と名古屋市緑区在住、七十歳。(境田未緒)

中日新聞 平成24年6月14日付:朝刊掲載記事

平成23年度 学業成績優秀者表彰

4月24日(火)、犬山キャンパスにて平成23年度の学業成績優秀者12名の表彰式が執り行われました。さらに5月8日(火)は、名駅キャンパスにおいてキャリアデザイン学科の表彰式が執り行われ、学長より祝福の言葉が述べられました。また、表彰式に集まった教員や学生からもあたたかい祝福の拍手が送られました。学業成績優秀者に選ばれた皆さんには、日頃のたゆまぬ努力を讃えて、それぞれ奨学金が授与されました。



2年連続して「学業成績優秀者表彰」を受ける池上さん。学長と記念写真に納まる空原さん。

経済学部	現代経済学科	2年	何 川 さん
		3年	森 川 貴 司 さん
		4年	池 上 博 一 さん
経営学部	経営学科	2年	張 雯 雯 さん
		3年	鐘 雷 嬌 さん
		4年	森 智 史 さん
法学部	ビジネス法学科	2年	村 越 裕 介 さん
	法学科	3年	古知屋 奈 央 さん
		4年	一 田 陽 之 輝 さん
人間生活科学部	教育保育学科	2年	阪 口 朋 実 さん
	管理栄養学科	3年	小 島 由 香 恵 さん
		4年	永 田 名 津 紀 さん
短期大学部	保育科	2年	河 合 苑 美 さん
短期大学部	キャリアデザイン学科	2年	笠 原 史 瑠 句 さん



『MOS世界学生大会2012』日本大会において森さんと仲村さんが銅賞受賞



6月8日(金)柴田経営学部長、ゼミ担任である近藤先生と荒鹿先生とともにふたりは佐々木学長を訪ね「銅賞受賞」の報告をしました。学長は、「スキルそのものよりも、そこに至るプロセスを大切にしたい。体で学んだことは今後生きていくうえで必ず役に立つ」とふたりの栄誉をたたえ、「元気ある学生たちを積極的に学内外へ発信し、元気な名経大をアピールしたい」と話され、最後は堅い握手で激励されました。

6月25日(月)、東京国際フォーラムにおいて『MOS世界学生大会2012』日本大会の表彰式が開催されました。大学・短期大学部門の1次選考においては、65,000人の学生がエントリーし、本学からは「ワード銅賞」に経営学部4年の森智史さん、「エクセル銅賞」に経営学部2年の仲村力也さんがそれぞれ表彰されました。

世界大会出場を賭けて、実施された2次選考は、各部門・各アプリケーションから上位3名、総勢27名から選出される激戦となりました。仲村さんはこの難関を突破し、エクセル部門の日本代表に選出されました。表彰式当日は、世界大会に出場する日本代表5名のスピーチが行われ、仲村さんは、「高校・大学の先生方に胸を張れるようにしっかり頑張りたい」と力強い宣誓を行いました。

決勝戦は、7月29日(月)~8月1日(水)(現地時間)にアメリカのラスベガスで開催され、世界各国から選ばれた代表者たちとマイクロソフト・オフィスのハイレベルなスキルを競います。

昨年度に引き続き『オデッセイ スクール オブザイヤー』を受賞しました!

このたび「MOS試験」実施の実績が評価され、株式会社オアッセイコミュニケーションズより、大学・短期大学部門において2011年度『オデッセイ スクール オブザイヤー』を受賞いたしました。この賞は、株式会社オアッセイコミュニケーションズが運営するMOS試験を通して学生のITスキル向上に貢献した全国の教育機関上位10校に毎年贈られるものです。

本学では、今後も多くの学生がMOS資格を取得できるように支援してまいります。

●ワード銅賞を受賞して

私がMOS試験を受けようと思ったのは、Word 2007対策「はじめてのワープロ」の単位取得のためにMOS試験の合格が必要だったからです。まさか、自分が日本大会で銅賞になるとは思ってもみなかったので、受賞の知らせには本当に驚きました。

今回、世界大会には出場することはできませんが、次にごうした機会に恵まれるよう努力したいと思います。今でも決して満足とは言えない「Word」の技術ですが、更に努力を重ねると共に、「Excel」など他分野の勉強にもチャレンジし続けることで、自分のスキルとして確立していきたいと考えています。

経営学部 経営学科 4年 森 智史さん



●「MOS世界学生大会」日本代表に選ばれて

私がMOS試験を受験したきっかけは、検定対策の講義を履修したことです。高校時代から資格取得に力を入れ、大学で最初に挑戦したのがMOS検定でした。大学の講義で模擬問題を何度か解き、万全の状態での試験に臨んだところ、驚きの1000点満点で合格。情報センターの方に世界大会があることを知らされ、その場でエントリーを行いました。

1次選考で銅賞になり2次選考の通知が届いた時には戸惑いもありましたが、挑戦してみようと思った。2次選考の小論文には自信がりましたが、電話面接は初めての経験で、想像していた質問と大きく違い自信を無くしかけていましたが、日本代表決定の通知を受けた時は夢のようでした。私には、日本代表として、世界で戦える技量や実力があると思えませんが、悔いのないように全力を発揮したいと思います。

経営学部 経営学科 2年 仲村 力也さん



※MOS(マイクロソフト オフィス スペシャリスト)
マイクロソフトが認定するMicrosoft Office製品に関する国際資格。試験は、すべて実技試験によって実施され、アプリケーションを使い与えられた課題を実行できるかどうかにより判定される。アプリケーション全般の知識、実技のスピード、正確さが要求されます。

※MOS世界学生大会
マイクロソフト・オフィスのワード、エクセル、パワーポイントのITスキルを競う世界規模の学生大会。株式会社オアッセイコミュニケーションズと米国サーティポート社の共同主催により今年で9回目を迎えます。

中日新聞社代表取締役社長 小出宣昭氏が講演

6月2日(土)、本学講堂において市民開放講座が開催され、中日新聞社代表取締役社長である小出宣昭氏による講演が行われました。小出氏は、「若者に期待すること」という演題で、戦後は都会に出てきた活力ある次男、三男が日本の高度成長を成し遂げたと説明。「少子化が進み長男の学生が増えた現在、次男や三男のようなバイタリティを持つには国際化が必要」「国際化とは、一人の人間として海外の人と付き合うこと。そこから新しい何かが生まれる」と熱く語られました。さらに、「若い人たちはどんどん地域に飛び込んで、先輩や友だちを見つけて欲しい」とメッセージがありました。

講演当日は、学生やその保護者、教職員、市民など、多くの聴講者が来場。小出氏の歯に衣を着せぬ痛快なトークに聞き入り、講演会は盛況のうちに終了しました。



「若者は国際化を」と語る小出社長



地域の方をはじめ、熱心に聴講される方々

後援会総会・教育懇談会

本学では保護者の皆様へ、ご子息・ご息女の学業、学生生活、進路先といった、あらゆる相談に対応するために定期的に「教育懇談会」を行っています。ゼミ担当教員(クラス担任)が保護者の皆様と個別懇談をし、不安や悩み、大学に対する要望などをお聞きしています。6月2日(土)、後援会総会に続き上述の市民開放講座を開講しました。



後援会役員の方々



後援会会長の挨拶

佐々木学長の挨拶

教育懇談会の日程

日程	開催地	会場
9月22日(土)	本学	コミュニティプラザ(履修懇談会と同時開催) キャリアデザイン学科 名駅サテライトキャンパス(教育懇談会のみ)
10月6日(土)	松本	松本市中央公民館
10月27日(土)	浜松	浜松市総合産業展示館
11月10日(土)	津	メッセウイング・みえ
11月17日(土)	大垣	アパホテル

問い合わせ先

名古屋経済大学 学生部 教育懇談会担当 TEL:0568-67-7244(直)

タイ・バンコク都の高校生が本学を訪問

4月20日(金)、愛知県国際交流協会からの招待で犬山市を中心に滞在することになった、タイ・バンコク都の高校生15名と関係者5名が本学を訪れました。

本学からは、管理栄養学科の李温九准教授と経済学部の下川郁子准教授、管理栄養学科3年のゼミ生5人と、経済学部1年のゼミ生2人が参加しました。バスが到着すると、メンバーは横断幕を持って歓迎。バスを降りたバンコク都の高校生たちはコミュニティプラザ前で記念撮影し、同館でのランチ会に出席するなど、本学生と楽しい時間を過ごしました。その後、7号館の会議室にて歓迎会が開かれ、若原副学長、青山事務局長と共に佐分副学長が参加し、英語で歓迎のスピーチを行いました。また、学生代表の安藤未来さん(管理栄養学科3年)も心こもったスピーチで、高校生たちを魅了しました。タイ側からはバンコク都庁の代表の方から挨拶がありました。

最後は図書館や幼稚園を見学。再びバスに乗り込んだバンコク都の高校生たちは、名残惜しそうに本学を後にしました。



会議室での歓迎会(スピーチする安藤さん:左から2番目)



コミュニティプラザをバックに記念撮影



いちむら幼稚園で園児と交流

犬山市議団が本学を視察

5月25日(金)、犬山市の市議会総務委員会の皆さんが本学を視察に訪れました。あいにくの雨模様でしたが、市議会総務委員会の皆さんは出迎えた佐々木学長、佐分副学長と会談。「魅力ある大学にしたい」「市内唯一の大学として犬山市全体をキャンパスとした地域密着型の大学を目指します」と語る、学長の言葉に熱心に耳を傾けていました。

その後、図書館へ移動。「絵本コーナー」では大きな絵本に目をとめ、熱心にページをめくっていました。幼稚園では園児のお遊戯を見学。園児の「バイバイ」の声に何度も手をふりながら幼稚園を後にしました。今回の視察は、官学連携の取り組みの一つとして和やかな雰囲気の中、本学についての理解をより深めていただき、本学にとって有意義な時間となりました。



本学を訪れた市議団の方々



図書館の「絵本コーナー」を見学

短大保育科「自己紹介ボード」で自己表現力を養う

今年度、保育科のフレッシュマンセミナーでは、「自己紹介ボード」の作成を行いました。これは、入学後すぐの1年生たちが、お互いの顔と名前をすぐに覚えられようという意図で今年度から始めたものです。入学してすぐの4月3日(火)の朝、フレッシュマンセミナーの会場に集



自己紹介ボード

まってきた1年生たちは、思い思いのポーズや表情をして一人ひとりの顔写真を教員に撮ってもらいました。ほかのプログラムが終わった夕食後、各ゼミに分かれて作業開始。まずは自分の顔写真を中心に、画用紙に自分の名前やニックネームや、短大2年間でやってみたいこと、どんな保育者になりたいか、などをデザインしながらレイアウトしていきまし

た。さすがが将来の幼稚園・保育所の先生です。それぞれに個性的で、素敵なボードができあがりました。

それを各ゼミで1枚の模造紙にレイアウトし、作業は終了。後日、「基礎演習」の時間内で、「自己紹介ボードコンテスト」を行いました。1年生全員、誰に投票するか悩みに悩んで、「いいな」と思った3人のボードに投票しました。

これから、保育者を目指し、実習や就職活動をしていく中で、「自己紹介」はとても重要です。自分自身について関わる相手に理解してもらうことは、実習や就職する際の重要なポイントとなるばかりではなく、相手の理解が信頼へとつながり、その後の人間関係を形成するためにとても大切なことです。

入学してから3か月経ちました。附属幼稚園での実習も始まっています。子どもたちの豊かな成長を支える保育者として、人間性豊かな人間になっていくためにも、自己を発揮し、また周りの人たちとしっかりとした人間関係を築いていけるよう、願っています。



短期大学部 保育科 市毛 愛子 准教授

父の日作文コンクール 文部科学大臣賞 受賞!

6月6日(水)、『日本ファザーズ・テイ委員会主催の作文コンクール』で河村さんが、最優秀の文部科学大臣賞を受賞しました。

(以下は河村さんが高3当時に応募した作文です)

「写真係」

ある日の出来事。私はリビングで小さい頃のアルバムの写真を見ていた。私が生まれてから小学校に入学する前ぐらいのアルバム。写真の横には丁寧に写真が撮られた日付、場所が書かれている。幼いころの自分になつかしさを感じ、しばらく写真を見ていた。七五三のときの写真、家族で遊園地に行った時の写真、弟と二人で家の庭のピニールプールで遊んでいる写真。

ページをめくっていくうちに、一枚の写真に違和感を覚えた。それは私が幼稚園の年中で弟が二歳の時、家族で京都に行った時の写真だ。後ろにはピカピカの金閣寺が輝いていた。特に変わったところはない。自分でも自分が考えている違和感が何であるのか分からない。当たり前のことだが、十二年も前の写真だから当然みんな若くて、私はその頃はまっていたセーラームーンのポーズで、弟は今の憎らしい態度とはうらはらな純粋な笑顔に、まだピースができなくて人差し指だけ出して「1」のポーズをしている。母も今と比べてしわがなく、父は今の寒そうな顔からは考えられないふさふさの頭、思わず笑ってしまった。

あれ……。私はその時自分が感じていた違和感に気がついた。それは「父」だった。その写真には父が写っている。当たり前のことだと思ってしまう。でも、ほかのどの写真にも父は写っていないのだ。遊園地、公園、家、どこの場所で撮っている写真にも、父は写っていない。

私の幼いころの記憶。今でもはっきり残っている。父はいつも「写真係」どこにいても、いつも首からカメラをぶらさげて私たちの写真を撮ってしてくれた。この写真の時の記憶、今、思い出した。いつも写真に写らない父と一緒に写真が撮りたくて、近くにいた観光客の人に私が写真を撮ってくれるように頼みにいったこと。アルバムの写真をよく見れば日付や場所は父の字で書かれていた。「8」の上の丸がでかいのは父のくせだ。

人間生活科学部 教育保育学科 1年 河村 茜音 さん

今は家族で出かけることもなくなった。部活や勉強で忙しいということもあるが、高校生にもなって家族と出かけるのは何だか恥ずかしい気がするからだ。父のカメラも、二階の押入れの奥にある箱に、ねむっている。私は二階に行き、押入れの中のカメラが入っている箱を取り出した。箱はほこりがかぶっていた。箱からカメラを取り出し手にとってみた。

その時、玄関の扉をあける音がし、「ただいま〜」という声が聞こえた。父が帰ってきた。最近父と会話することも少なくなっていたが、私は玄関の扉のしるま音と同時に、カメラを持って玄関に向かって走り出した。目を丸くして私を見ている父に、手に持っていたカメラを渡した。父の顔はたちまち笑顔になって

「その壁に立ってみろ」と言って、私に向かってカメラをかまえた。「パシャッ」父がカメラをかまえる姿は何年ぶりだろうか。私は「私にも撮らせて!」と言い、父からカメラをもらって、父を壁に立たせた。そして父のようにカメラをかまえてシャッターを押した。なんだかワクワクしてすごく興奮した。

「私、将来カメラマンになる!」と、はっきり言葉になって口から出ていた。すると父は満面の笑みで「おう、がんばれ」と、言ってくれた。

我が家の「写真係」は父。でもこれからは「写真係」は私。我が家の写真係の二代目は私。これからは家族の写真は私が撮る。もちろん父もちゃんと写るように。



表彰式での河村さん(左から3番目)

経済学部特別研究室

地域社会研究チーム

地域社会研究チームは「経済学の視点からみた地域活性化」をテーマとし、さまざまな研究活動を行っています。私たち1年生は、観光や農業などそれぞれ興味のある視点から研究を始め、先生方の指導のもと、基礎知識を学んでいます。今後は、地域活性化に取り組む方々との交流や研修を通じて知識を深め、学生の視点から地域の課題を捉え、地域の方々と一緒に改善策を模索していきたいと思っています。



地域特別研究室でのミーティング(武田さん:左)

経済学部 現代経済学科 1年 武田 幸二 さん

ファイナンシャル・プランナーチーム

ファイナンシャル・プランナーチームは、授業以外の時間を使って先生の指導のもと、週1回のペースでFP技能試験3級のテキストを勉強しています。勉強内容は、資金計画、リスク管理、金融資産、タックスプランニング、不動産、相続、事業承継など、ライフプランを考える際に必要となる知識です。勉強会に参加しているのは少数ですが、みんなでFP3級の資格取得を目指して頑張っています。



FP技能試験3級受験対策勉強会(徳永さん:手前)

経済学部 現代経済学科 3年 徳永 竜樹 さん

経営学部会計特別研究室

会計特別研究室は、日本商工会議所簿記検定2級以上の取得を入室条件にしています。現在私を含め10名の経営学部生が研究室生として在籍しています。研究室生は、会計士・税理士などの職業会計人を目指している人や企業の経理部門への就職を希望する人が多く、将来、広く会計業務に従事したいと考えています。そのためには、複式簿記の技術習得が不可欠です。研究室で学ぶべき内容は、割賦販売、委託・受託販売、試用品販売などの特殊商品売買や外国企業との取引についての外貨建会計、あるいは建設業や製造業といった業界別会計など非常に広範囲にわたります。これらに関する会計事象について、複式簿記の技術を基礎、発展、応用と段階的に学んでいきます。正直、どれも難解ではありますが、研究室生それぞれの目標を実現するため、日々会計スキルの向上に取り組んでいます。



経営学部 経営学科 2年 水谷 友哉 さん

法学部学習支援室

この春、名古屋経済大学に入学し、初めて足を運んだのが法学部学習支援室でした。この部屋を実際に使用してみようと思ったのはフレッシュマンセミナーという1年生を対象としたイベントがきっかけでした。そこでOBの先輩方のお話を聞いて、将来への目標を持つことができ、その目標には何が必要なのか、という疑問の答えがこの学習支援室にありました。幅広い資格の参考資料等が揃っており、法律の勉強をしたいという方や資格試験の勉強をしたい方にはもってこいの場所だと思います。この支援室のおかげで毎日が充実し、忙しくも楽しい大学生活を送ることができています。

進路でお悩みの皆さん、大学生活をより充実させたいという皆さん、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



先輩が講師となり開講される勉強会(尾崎さん:右)

法学部 ビジネス法学科 1年 尾崎 文成 さん

消費者問題研究所の「第32回公開講演会」を開催

6月20日(水)、名古屋ガーデンパレスにおいて、本学の消費者問題研究所主催による「第32回公開講演会」が開催されました。今回のテーマは「集団的消費者被害救済制度のあり方」でした。講師(パネリスト)として川口康裕氏(消費者庁審議官)、杉浦市郎氏(NPO法人あいち消費者被害防止ネットワーク理事長)、大西康代氏(公益社団法人全国消費生活相談員協会中部支部長)、白井康彦氏(中日新聞名古屋本社生活部編集委員)をお招きし、消費者問題研究所の田口義明所長(経済学部教授)がコーディネーターを務めました。

講師からは、行政(新しい訴訟制度の企画立案)、適格消費者団体(制度運用の担い手)、報道機関などの立場から詳細かつ明快な報告がありました。現在進行形の新しいテーマであることから、活発な質疑応答が行われ、講演会は盛況のうちに終了しました。



講演会を前に挨拶をする佐々木学長



川口康裕氏

杉浦市郎氏

大西康代氏

白井康彦氏

さまざまな活動と学習チューター

私は名経大に入学して以来、さまざまな活動に参加してきました。犬山豆腐料理メニューコンテストでは、3位・2位と順調に順位を上げ、犬山市学生議会や学生選挙の会、オープンキャンパスの学生クルーも務めています。6月と7月に行われたオープンキャンパスでは、早川ゼミの仲間と「とてもいいよ〜!名経弁当」を企画し、大好評でした。また、資格取得にも積極的に挑戦し、「サプリメント管理士」「ダイエットコーディネーター」などの資格を取得。「何事も積極的に」が私のモットーです。

小牧市の学習チューターを始めたのは、教職の授業の際に先生に紹介していただいたからです。栄養教諭免許取得のための実習期間は1週間、小学校教諭の実習期間1ヶ月と比較すると非常に短いと感じました。児童・生徒と関わる機会を積極的に持つ必要があると考え、週1回程度小学校で活動しています。

学習チューターをしていて感じることは、児童がとても可愛いこと。日々成長していく様子を見て、純粋に「何かしてあげたい!」という気持ちになります。この気持ちは将来教員として勤める際にとっても重要であると考えています。また、今改めて小学校の授業を聴くことで、授業の構成の仕方や技術などとても勉強になっています。

たとえば、授業内容に興味を持ってもらうための問いかけや時間配分などの構成、また実際の児童の反応など、決して机上では学ぶことのできないことを得られたと思います。他にも、学習チューターとしているんなクラスで活動する機会をいただき、各学年の発達やクラスの雰囲気なども知ることができました。将来、栄養教諭として食育指導をしていくなら、どのくらいの時期にどんな内容をどのように指導するとよいのか、といったイメージも具体的に持つことができ、とてもプラスになりました。今後もさまざまな活動を通して、自分を成長させていきたいと考えています。



人間生活科学部 管理栄養学科 4年 富川 由紀さん

Relay Essay 018 リレーエッセイ

見るために目を閉じる

短期大学部 保育科 家接 哲次 准教授

私の専門分野の臨床心理学・精神医学では、最近「マインドフルネス認知療法(MBCT: Mindfulness-Based Cognitive Therapy)」という心理療法がとても注目されています。この心理療法は、欧米でうつ病再発予防のために開発されたものです。うつ病は一度罹患してしまうと、たとえ回復したとしても再発しやすいことで知られています。この高い再発率を抑えるのが患者さん及び専門家にとって大きな課題でしたが、「マインドフルネス認知療法」が開発されたことで光が見えてきました。

うつ病は、否定的な気分(落ち込み)、否定的な思考(「私は駄目な人間だ」など)、身体症状(疲労感、不眠など)が相互に作用して私たちが悪循環サイクルに落とし込みます。気分が沈んでくると、多くの人は考えている内容が事実のように思えてきます。これまでの主流の心理療法(認知行動療法)では、「私=駄目な人間」から「私≠駄目な人間」という考え方に修正できるように、いろいろな情報・事実を患者さんと治療者が一緒に探すようなアプローチが行われていましたが、「マインドフルネス認知療法」ではそもそも「私=駄目な人間」は頭の中に現れては消えていく一過性の考え方であって必ずしも事実ではない、というようなスタンスを取ります。そして、過去を振り返ってクヨクヨしたり、将来を思い煩ったりすることに時間とエネルギーを浪費するのではなく、「今この瞬間」を大切にすることを強調します。私たちは「今この瞬間」が積み重なって人生が綴られていくことを忘れてしまいがちです。一旦目を閉じて、「今この瞬間」に心や身体で体験していることに優しい思いやりをもって注目してみると、今まで見えてなかった大切なものが見えてくるかもしれません。



Zindel Segal(MBCT開発者の一人)とMBCTの研修(ニューヨーク)にて

Profile

いえずくつじ
名古屋市立大学医学研究科修了。博士(医学)。臨床心理士。コロラド大学心理学部客員研究員(2008年)。訳書に「キーポイントで学ぶ マインドフルネス認知療法入門」(大野裕監修、家接哲次訳、創元社)などがある。日本認知療法学会所属

●リレーエッセイ

今回は、人間生活科学部 管理栄養学科 鈴木康夫准教授です



『サッポータちの十八世紀』 近代イギリスにおける女性・ジェンダー・セクシュアリティ

音羽書房鶴見書店 2012年2月発行

法学部 ビジネス法学科 教授 川津 雅江 著



同書は、日本学術振興会科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の助成を受けて出版されました。第1部「サッポータの歴史/物語」、第2部「十八世紀のジェンダーとセクシュアリティの表象」、第3部「イギリスのサッポータち」の3部構成で、古代ギリシアの女性詩人サッポータに関する言説の受容、女性同性愛の言説の形成、「サッポータ」と呼ばれたイギリス女性詩人

の詩的言説やサッポータを最初の知的な女性として称えるイギリス女性作家たちのフェミニズム的言説などを詳しく検証しています。過去10年間に助成を受けた4つの科学研究費補助金による研究成果をもとにした、女性作家研究、ジェンダー研究、セクシュアリティ研究を横断する学術書ですが、第1章「レスビアン誕生秘話」などは、専門外の方にも興味をもっていただけるのではないかと思います。



Profile

かわつ まさえ
早稲田大学文学部、同大学大学院文学研究科博士前期課程を経て、名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。英文学専攻。1990年に名古屋経済大学に赴任し、2008年より現職。

著作物寄贈のお願い

図書館では、本学教員の著作物を学生および一般市民の方に広く紹介するため収集しています。新しい著作、または過去の著作で図書館に所蔵されていないものは図書館にご寄贈くださいますようお願いいたします。

強化指定クラブの活躍

●硬式野球部

愛知大学野球春季リーグで2部昇格!



5月27日(日)、「愛知大学野球春季リーグ」の最終戦が愛知東邦大学・日進グラウンドで行われました。結果は、本学野球部が愛知東邦大学に8-0で完封勝利。最終成績を9勝3敗とし、見事に3部リーグ優勝を果たしました。また、6月2日(土)~4日(月)瑞穂野球場にて星城大学との2部・3部リーグの入れ替え戦が行われ、対戦成績2勝1敗で本学が2部リーグ昇格を果たしました。

なお、平成24年度春季リーグの表彰選手・ベストナインが発表され、本学の常真人選手が「最優秀選手賞」「最優秀投手選手賞」に、小倉聖将選手が「打撃賞」に輝き、表彰されました。皆様のご声援、ありがとうございました。



表彰された小倉さん(左)と常さん(右)

●ラグビー部

A1リーグ昇格を目指す

私たちラグビー部はA1リーグ(1部)昇格と全国地区対抗戦出場を目指し、日々の練習に励んでいます。6月でオープン戦が終了しました。これからメンバーの絞り込みや戦術の確認、そしてチームの仕上がり具合を試す夏合宿が待っています。秋に開催される公式戦に向け、一日一日を大切に練習に力を入れていきたいと思っています。応援、よろしくをお願いします。



●男子バスケットボール部

次の大会に向けた活動について

男子バスケットボール部では、今年度は1部リーグで、インカレ出場を目標とし、それに挑戦していきたいと思っています。そのため今は、東海トーナメントと西日本大会での反省点や課題点を改善するために、日々練習に励んでいます。8月には北海道へ合宿に行き、リーグ戦に向けさらに頑張っていけるように強化していきます。応援をお願いします。



●剣道部

全国大会出場向け稽古に励む

9月8日(土)・9日(日)には全国団体予選東海地区の第59回東海学生剣道優勝大会兼第38回東海女子学生剣道優勝大会、9月30日(日)には第55回東海学生新人優勝大会兼第21回東海女子学生剣道優勝大会が行われます。私たちは東日出男先生・一良先生のもとで最高の結果を残すため、日々努力し進歩するために稽古しています。夏休みには8月20日(月)から稽古を開始し、本校で22日(水)~24日(金)まで3泊4日の強化合宿を行います。23日(木)には愛知県警察特別生と合同稽古を予定しています。

男女共に全国への切符を目指して頑張ります!!



●サッカー部

元Jリーガー阿部敏之氏が新監督就任

ワールドカップアジア予選、なでしこジャパンオリンピック出場など、連日サッカーの話題がマスコミなどを賑やかしています。本学もスポーツクラブ強化の一環としてサッカー部の強化に力を入れており、本年度から元Jリーガーの阿部敏之氏を監督に迎え、サッカー部が強化指定クラブに昇格しました。監督は、鹿島アントラーズで主力選手として活躍し、日本代表候補にも選ばれた華やかな経歴を有しており、本学のサッカー部の強化に並々ならぬ情熱を注いでいます。クラブの指導と同時に優秀な選手獲得のため、日夜フル回転で飛び回っています。大学としても全学的に支援しており、今後の発展、活躍が期待されています。



Profile

あべ としゆき
1974年生まれ。帝京高校在学中に全国優勝。1995年に筑波大学を中退し、鹿島アントラーズに入団。以後、浦和レッズやベガルタ仙台などでプレー。2012年よりサッカー部の監督になり、2013年から本格的に指揮を執る。

就職状況

平成23年度卒業生 就職状況 (平成24年5月1日現在)

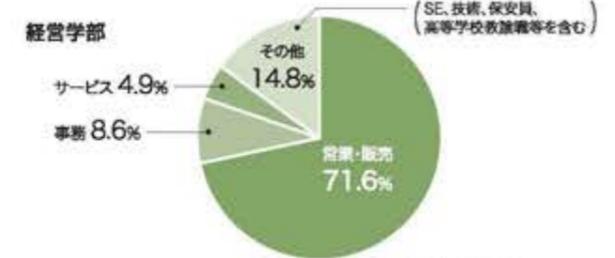
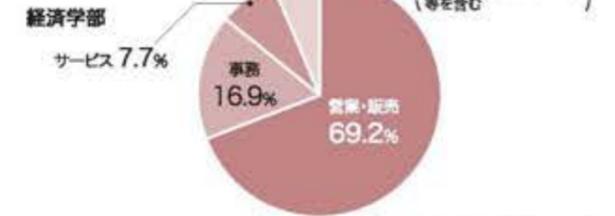
「就職氷河期」と呼ばれる厳しい就職戦線のなかでも、平成23年度(2012年3月卒業生)の就職決定率(大学・短大部の合計)は、90.1%となり、昨年度比+2.9%となりました。また、求人件数も合計で5,093件(前年度比+560社)となり、就職希望者1人あたりの求人件数は、約10.7件となっています。キャリアセンターでは学生への個別指導を繰り返し行いながら、希望する進路に向けたアドバイス、情報提供を随時行っています。

大学 学部(学科)	就職決定率	前年同期
経済学部	91.5%	86.7%
経営学部	94.2%	80.2%
法学部	86.7%	85.9%
人間生活科学部(教育保育学科)	90.6%	94.5%*
人間生活科学部(管理栄養学科)	89.4%	81.3%
平均	90.6%	85.1%

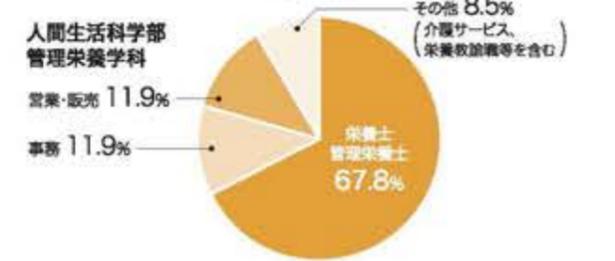
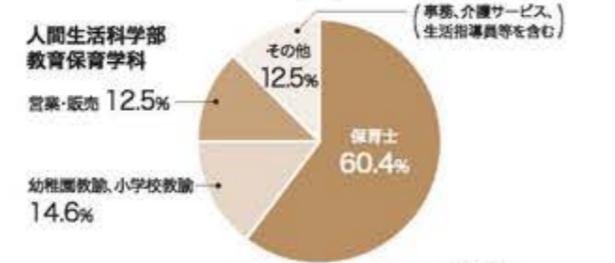
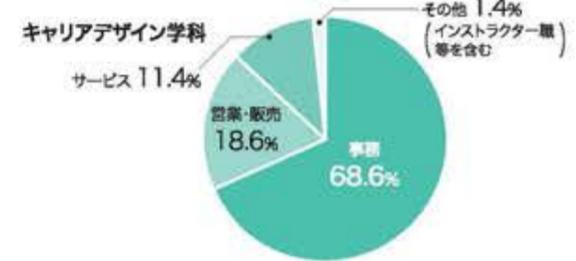
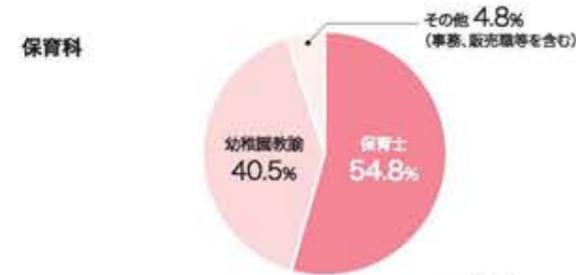
*幼児保育学科卒業生のデータです。

短期大学部(学科)	就職決定率	前年同期
キャリアデザイン学科	85.4%	89.2%
保育科	95.5%	95.5%
平均	88.9%	92.4%

●職種別進路状況(大学)



●職種別進路状況(短期大学部)



学生の個性に合わせたキャリア教育で、高い就職実績を誇っています。

●男子学生の主な就職先(2009~2012年卒業生)

愛知県警察本部	八百津町役場(岐阜)	愛知信用金庫	株式会社長野銀行
岐阜県警察本部	七宗町役場(岐阜)	豊橋信用金庫	株式会社コメリ
警視庁	妻木村役場(長野)	半田信用金庫	株式会社武富士
防衛省自衛隊	奉安村役場(長野)	東濃信用金庫	株式会社帝國アーケタック
江南市役所	西村幸二税理士事務所	高山信用金庫	ゲンキー株式会社
伊勢市役所	太田直樹税理士事務所	愛知西農協同組合	上新電機株式会社
海部南消防本部	野島章税理士事務所	めぐみの農協同組合	大東建託株式会社 ほか

●女子学生の主な就職先(2009年~2012年卒業生)

高森町役場(長野)	愛知北農協同組合	株式会社ミーレヒルフィージャパン
税理士法人のぞみ	日本生命保険相互会社	株式会社愛知冠婚葬祭互助会
立松千秋税理士事務所	明治生命保険相互会社	株式会社エディオン
権監注二行政書士事務所	第一生命保険株式会社	株式会社パロ
あいさし総合事務所	郵便事業株式会社	資生堂化粧品販売株式会社
東春信用金庫	株式会社かんぽ生命保険	青山商事株式会社
大井川農協同組合	株式会社名古屋三越	リゾートトラスト株式会社 ほか

広がりをもせる高大連携

●高蔵中学校 いちむら幼稚園職業体験

最初、高蔵中学校の2年生60名は小さい体の園児に戸惑った様子でした。しかし、園児たちが中学生にすぐに話しかけたため、中学生の表情も徐々に笑顔に。一緒にブロックや粘土、まますことなどの道具で会話を楽しみながら、和やかな雰囲気の中で遊んでいました。5歳児のクラスを担当した中学生は、お面を作って頭にかぶり、園児と歌の発表会に参加。少し恥ずかしそうでしたが、貴重な体験ができたようでした。お昼には「給食を残さず行儀よく」の約束通り、園児の見本となって給食を食べていました。帰る頃にはすっかり打ち解けていたので、園児たちは名残惜しそうに中学生たちを見送っていました。



園児と一緒に給食



お面を作って「歌の発表会」に参加

●犬山南高校 大学講義体験

6月5日(火)、愛知県立犬山南高校の3年生196名が「総合学習」の一環として大学の講義を体験しました。事前に希望の講義を選択して迎えた体験授業であったせいか、真剣なまなざしで講義を聴き、メモをとったり、ユーモアたっぷりに展開される講義に思わず笑みがこぼれたり、あっという間の70分間でした。



笑みもこぼれる和やかな雰囲気



絵本ライブラリーで絵本の読み聞かせを体験

●赤穂高校 大学見学会

台風4号が近づくと6月19日(火)、長野県から赤穂高校商業科1年生40名(引率教員2名)が本学を見学しました。佐分副学長の挨拶に始まり、入試部による大学紹介、対談形式の先輩の体験談、キャンパスツアーなどを体験しました。特に、管理栄養学科4年の三林優生さん、キャリアデザイン学科2年の百瀬亜由美さんの対談での夢の実現に向かういきいきとした姿に感銘を受けた様子でした。



長野県出身の先輩からメッセージ(右から三林さんと百瀬さん)



キャリアセンターを見学

～市邨校～

寺本明日香さん ロンドンオリンピック壮行会開催

6月17日(日)、寺本明日香選手ロンドンオリンピック壮行会が名古屋東急ホテルにて開催されました。当日は大村愛知県知事、河村名古屋市長、山下小牧市長らの他、約500人が寺本選手の応援にかけつけ、多くの励ましの言葉が贈られました。

司会は本学園同窓生の矢野きよ美さんが務め、また北京オリンピック体操女子日本代表の同窓生黒田真由さんからもあたたかいエールが贈られていました。本校軽音楽部のメンバーが寺本選手のために作詞作曲した応援歌が披露された時には、感激のあまり壇上で涙を見せた寺本選手でしたが、挨拶では「つらいこともいっぱいあったけど、強くなれたのはコーチや親のおかげだし、励ましてくれた学校の友だちのおかげ。チャレンジャーなので怖いもの知らずで頑張ります」と語りました。

その他、壮行会では、お笑いが大好きな寺本選手のため、お笑いコンビ「フルーツポンチ」がゲスト出演し、彼女を喜ばせていました。



大村愛知県知事、河村名古屋市長、山下小牧市長に囲まれ写真に納まる寺本さん(中央)

ダンス部 全国大会へ
全国高等学校ダンスドリル選手権大会への出場権獲得

6月9日(土)に行われた「全国高等学校ダンスドリル選手権大会2012」東海大会で、本校ダンス部が、審査員の審査の結果、見事に全国大会出場を決めました。ダンス部は先日、吉本クリエイティブ・エージェンシーとの提携による、ダンサーのISOPPさん、Junko☆さん、まちゃあきさんを招いたダンス教室・ワークショップを行ったばかり。今大会で、全国大会出場を決め、さらに活動を充実したものにしていきたいと思えます。今後もダンス部の活動を応援よろしくお願いします。



～高蔵校～

硬式テニス部女子団体
10年ぶりの全国大会出場決定!!

この度、名古屋経済大学高蔵高等学校硬式テニス部女子は、5月26日(土)～27日(日)に行なわれた「平成24年度愛知県高等学校総合体育大会テニス競技 団体の部」において、ライバル校との接戦を勝ち抜き「優勝」の栄冠を手にすることができました。平成14年以来、10年ぶりの快挙にメンバー全員で大喜びしました。本校のテニス部は全国優勝3回、準優勝1回という実績と歴史を持つクラブです。その名に恥じることはないよう、一戦一戦を大切に、全国大会優勝を目指して頑張っていきたいと思えます。



2年ぶり16回目の「東海総体」団体優勝



10年ぶり「県高校総体」団体の部優勝